

2022 年 7 月 1 日

The Emerging Markets Weekly

再燃する米景気減速への懸念

新興国市場：前週末 24 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。堅調な株式市場を支えに KRW や CNY が堅調も、PHP や THB は弱含んだ。欧米時間の新興国通貨は上昇した。欧米時間の新興国通貨もまちまち。米期待インフレ率の下振れにはリスクセンチメントの改善が続き、TRY は新たな相場下支え措置も手掛かりに前日比+2.5%上昇、ZAR や MXN も買われた。一方、非鉄価格等の反応は鈍く、南米通貨には弱さも目立った。週初 27 日、アジア時間の新興国通貨は前週末の流れを引き継ぎ小幅上昇。KRW は大幅続伸、THB や PHP も反発した。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米金利反発と米株の伸び悩みが重しとなり、ZAR や MXN が反落。他方、TRY は前日比+2.2%と続伸、EUR の上昇に東欧通貨が堅調となった。28 日、アジア時間の新興国通貨は新規材料に乏しく小動き。個別には、中国が海外からの入国者に義務付けている隔離期間を短縮すると発表し、CNY が一時急伸。THB も上昇した。欧米時間の新興国通貨は下落。米経済指標の下振れに景気先行き懸念が再燃、リスクオフの流れが広がった。ZAR と MXN は前日比▲1%超下落、TRY や BRL も軟調。CNY も前日比マイナス圏に沈んだ。29 日、アジア時間の新興国通貨は前日の流れを引き継ぎ小幅安。KRW は経済指標の下振れも重なり前日比▲1.2%下落。PHP も軟調だった。欧米時間の新興国通貨はまちまち。パウエル FRB 議長は講演内容に特段サプライズはなく、米株がもみ合いに転じるなか、米金利は昨日からの低下を継続と、市場での反応も割れた。ZAR は電力公社による計画停電を巡る懸念もあり 3 日続落。他方、BRL は前日比+1.7%と反発した。30 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。PHP や KRW がしっかりと、THB や IDR が弱含むも、PHP はしっかりと。中国の 6 月製造業/非製造業 PMI の改善を手掛かりに CNY も一時値を伸ばした。欧州時間の新興国通貨はまちまち。当初弱含むも、米 6 月 PCE デフレーターが市場予想を下振れると、米金利が低下とドルは反落、新興国通貨は下落幅を縮小する動きに転じた。東欧通貨の一角等が前日比プラスとなった一方、BRL は前日比▲1.4%と大幅反落。

アジア：24 日発表のマレーシア 5 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.8%と前月(同+2.3%)から加速、市場予想(同+2.7%)も上回った。食料品価格や燃料価格の上昇が全体を押し上げた。中国人民銀行(PBoC)はウェブサイトで 28 日、易総裁が国営テレビのインタビューに、金融政策による景気支援を続けると述べるとともに、実質金利はかなり低いとの認識を示したことを明らかにした。

中東欧・アフリカ：ロシアの外貨建て国債が事実上、債務不履行(デフォルト)に陥った。債権者は利払いを受け取れないまま、利払い猶予期間の最終日(6 月 26 日)を迎えた。トルコ金融当局は 24 日、一定規模以上の外貨を保有する企業への新規リラ建て貸出を禁止すると発表。該当企業に外貨売却を促す。

ラテンアメリカ：ブラジル中央銀行(BCB)のネット総裁は 27 日、金融政策面で BCB は仕事の大半を終え、今後は物価押し下げ効果を確認していくと述べた。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(メキシコ)

Banxico は利上げペースをさらに加速

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は 23 日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を 75bp 引き上げて 7.75%とすることを全会一致で決定した(図表 1)。利上げは 2021 年 6 月以降、9 会合連続。利上げ幅は前回 5 月会合(50bp)から加速したが、前回会合の声明文で示唆されていたこともあり、市場への影響は限定的であった。また、今会合の声明文では、次回会合(8 月 11 日開催予定)における追加利上げも示唆された。

利上げの主な理由は、引き続きインフレ圧力の高まりとみられる。5 月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.65%と前月(同+7.68%)から僅かに減速。ただ、依然 2001 年 1 月(同+8.11%)以来の水準にある。また、5 月コア CPI は同+7.28%と前月(同+7.22%)から小幅ながら加速を続けており、インフレ圧力がより広範囲に及んでいることがうかがえる(図表 1)。そして、6 月前半時点では、それぞれ同+7.88%と同+7.47%で再加速の動きがうかがえる。

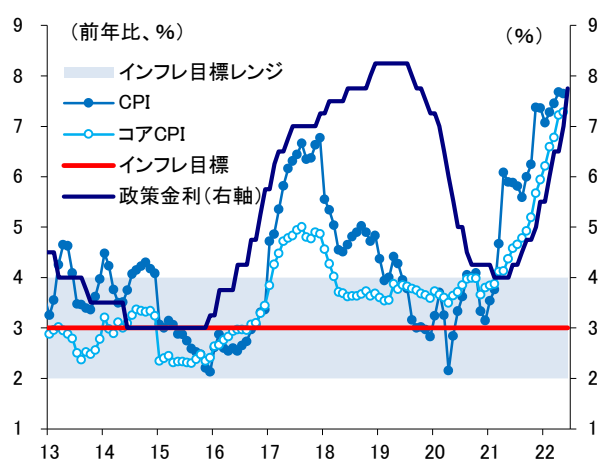
先々のインフレ見通しもさらに上振れている。Banxico の公表した最新の CPI 見通しでは、足許の 2022 年 4~6 月期から 2023 年 7~9 月期にかけての 6 四半期について、再び上方修正が加えられた(図表 2)。CPI がピークを打つとみられる時期と、CPI が 同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)に収まってくるであろう時期については、従来見通しを 1 四半期後ずれさせている。また、コア CPI の見通しについては、2024 年 4~6 月にかけて予測対象全期間にわたって上方修正された点も注目されよう。

なお、Banxico はインフレを巡るリスクバランスについて、著しく(significantly)上方に傾いているとの認識を示した。ちなみに、同行はインフレの上振れ要因として、①コア CPI の高止まり、②パンデミックに伴う供給制約、③地政学リスクによる食料・エネルギー価格の一層の上昇、④通貨安、⑤賃金上昇等、を挙げている。前回会合ではリスクバランスが悪化している(deteriorating)として、①と③が懸念されていたが、今会合ではさらに④への懸念が込められていると思われる。米国に限らず、主要国で金融引き締め動きが強まっており、通貨安を通じた、間接的なインフレ圧力が従来以上に警戒されているのではないかと。

かかる状況下、Banxico は次回会合でも今会合同程度(75bp)の追加利上げを検討していることを、以下の通り声明文に記した。コア CPI の上昇にみられるインフレ圧力の拮がりに対応するとともに、間接的な圧力となりうる通貨安に目配りしながら、同行は金融引き締めを続けざるをえない。同行の想定通り、7~9 月期にインフレ率がピークアウトするのかが、当面の注目点となろう。

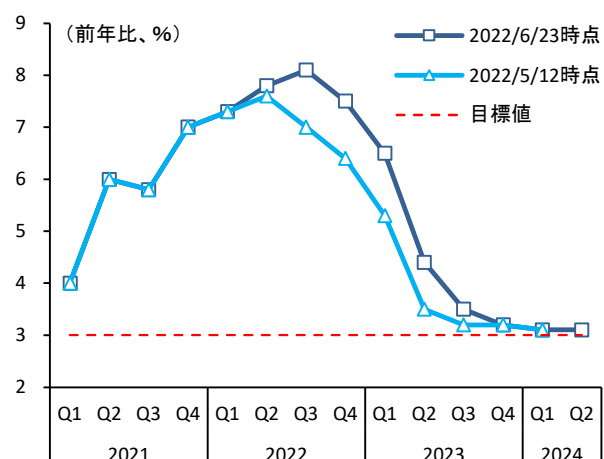
For the next policy decisions, the Board intends to continue raising the reference rate and will evaluate taking the same forceful measures if conditions so require.

図表 1:政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2:Banxico の CPI 見通し



出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

6 月金融政策会合～2 会合連続での利上げを実施

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

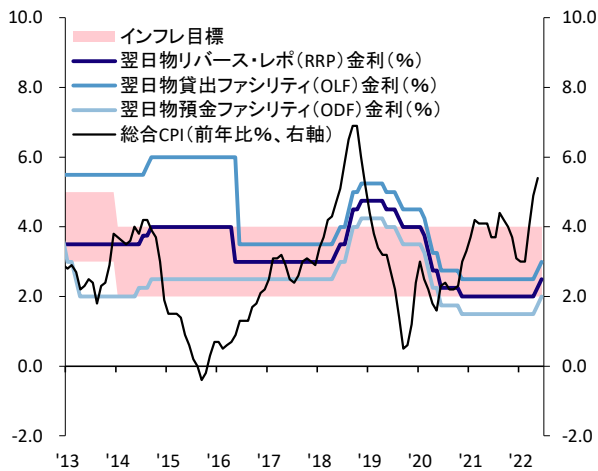
フィリピン中央銀行(BSP)は23日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを超来の2.25%から2.50%へ引き上げた(図表1)。前回5月会合に続き2会合連続での利上げとなった。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも同じ幅だけ引き上げてそれぞれ3.00%と2.00%とした。なお、ブルームバーグの事前予想では25bpsの利上げの予想が有力であった。

声明文では、インフレに対する強い警戒が示された。5月消費者物価指数(CPI)は前年比+5.4%と4月の同+4.9%から加速(図表2)。PHP安と輸入物価の上昇に伴って、食料品価格と燃料価格の騰勢が目立った。かかる中、BSPは3会合連続でインフレ予想を引き上げることを発表した。22年と23年の物価上昇率はそれぞれ前年比+5.0%(従来比+0.4%ポイント)、+4.2%(同+0.3%ポイント)に上方修正された。24年は同+3.3%としており、BSPの目標とするレンジ(+2.0～+4.0%)に鑑みればインフレの収束に2年を要することとなる。

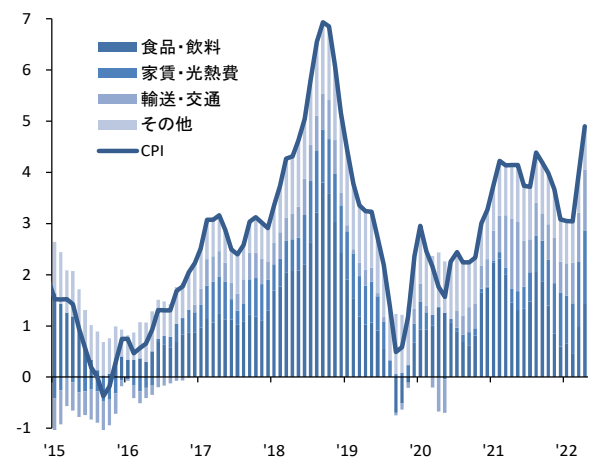
一方、利上げの継続については足許の景気動向を踏まえ支援措置を徐々に引き上げることが可能であるとの見解を示している。前回会合にて緩和的な金融政策のスタンスは一変した印象があるが、今回会合においてはインフレ抑制をより強く目指す内容となっている。今後の政策運営についてCPIを目標レンジに収めるべく全ての必要な措置を講じる準備は出来ていると言及するなど、インフレに対して機動的に金融引き締め動く方針を示している。

また、今回の決定は16年ぶりの安値を記録するPHPの動向にも影響を受けたものと見られる(図表3)。前述の通り、原油をはじめとするエネルギー価格の高止まりが続く中、資源輸入国のフィリピンの貿易収支は悪化しており、これを主因として経常赤字が常態化する状況に戻っている(図表4)。先進国、新興国を問わず資源輸入国にとって需給環境は逆風が続く状況となっており、こうした通貨はPHPに限らず軒並み軟調に推移する相場展開になっている。この他にも世界的に中央銀行が金融政策の正常化に着手している中でリスクオフの動きが強まっていることも相まって、新興国通貨は売られやすい地合いとなっている。実体経済の回復が米国よりも遅れをとるASEAN諸国にとって米国の利上げに追随することは困難であり、ドル高に押される相場展開は継続しそうだ。

こうした中で、BSPはインフレ見通しの上方修正が続く以上、利上げをはじめとする金融引き締めを継続するものと考えられる。景気回復途上であることを勘案すればそのペースは緩やかと見られ、7～9月期にBSPは2度金融政策会合を予定するが、本欄ではそれぞれ25bpsの利上げを実施すると予想する。なお7月以降ジョグノ総裁に代わりフェリペ・メダラ氏が次期総裁に就任予定であるが、金融政策の骨子に変更はないものと考えたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標


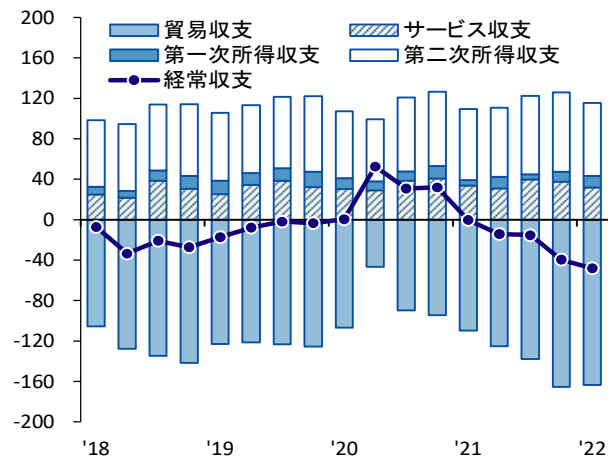
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 原油価格と PHP の動向


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 経常収支の動向 (億ドル)


出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

6 月金融政策会合～利上げの実施はインフレ動向次第か

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 22～23 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートに 16 回連続で 3.50%に据え置いた(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も現状維持となった。ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢であった。引き続き、BI が 16 年に 7 日物リバースレポレートを主要政策金利とした以降では過去最低の金利水準となっている。

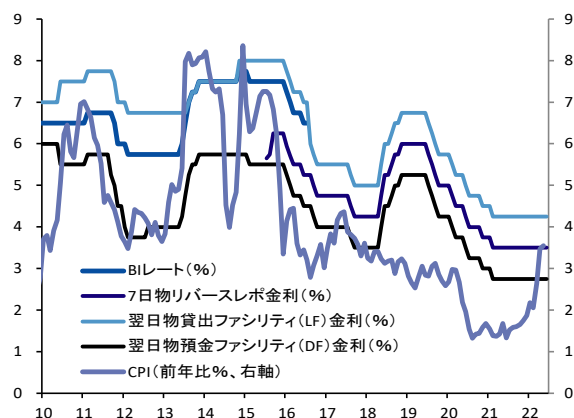
声明文ではインフレ高進や米国をはじめとする先進各国の金融政策の正常化に伴う金融市場のリスク心理の悪化が世界経済にとってリスク要因となっている点に引き続き言及。今後にかけて世界経済の成長見通しが更に下押しする可能性を示唆した。国内経済については引き続き堅調な回復を維持していると総括された。景況感や消費者信頼感指数などの景気先行指標が上向いている他、資源価格の高騰が進む中で、大きな貿易黒字を計上していることが景気を下支えするとの見方を示している(図表 2)。BI は国内のインフレ動向への警戒を強めているが、22 年の成長率見通しを従来の前年比+4.5～+5.3%に据え置いている。

消費者物価指数(CPI)は引き続き騰勢を強めている。5 月 CPI は前年比+3.6%となり、BI の定める目標レンジ(+2.0%～4.0%)の上限に近づきつつある(図表 3)。内訳を見ると食品やエネルギー関連の項目での上昇が目立つが、それらを除いたコア CPIも同+2.6%と 4 月の水準を維持している。この点について、ペリーBI 総裁は足許のインフレを管理可能な水準にあるとしたものの、年後半にかけて目標レンジを上振れる可能性を示唆した。加えて、物価動向とインフレ期待を注視しつつ必要な手段を講じるとの方針を示した。

かかる中、BI は今後の政策指針についてインフレ抑制のほか為替の安定に注力していく姿勢を示している。その内容には前回会合時と大きな変化はないが、海外の動向をみると FRB の利上げ幅拡大や ECB のマイナス金利政策からの脱却など、先進各国のタカ派傾斜が加速している。こうした状況から IDR に関わらず新興国通貨は売られる相場展開となっている(図表 4)。周辺国と比較すると資源需要の高まりによって IDR の実需は堅調であることから下落幅は小さいが、対米金利差を意識した IDR 売りが出ることは注意が必要だろう。

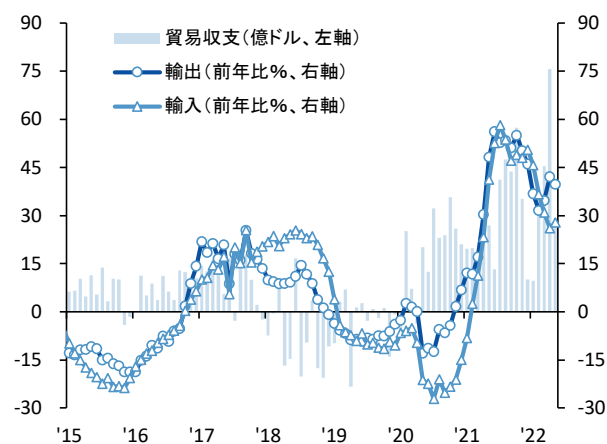
BI は景気にも配慮した政策運営を継続しているが、政策転換の契機となるのはやはりインフレ動向であろう。CPI 上昇率が BI の目標レンジを超えた段階では利上げに着手しているだろうが、対外要因やインフレの内容によってはそれ以前での政策転換も十分に考えられる状況だ。本欄では 7～9 月期以降、四半期ごとに 25bps の利上げを実施していくと予想する。もっとも、米国がそれ以上のペースで金利政策正常化を進めている以上、IDR は利上げの実施までドル高に押される相場展開が続くそうだ。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



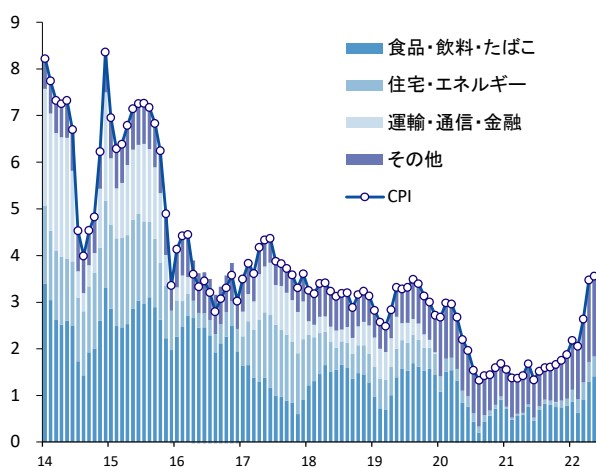
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 貿易収支の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

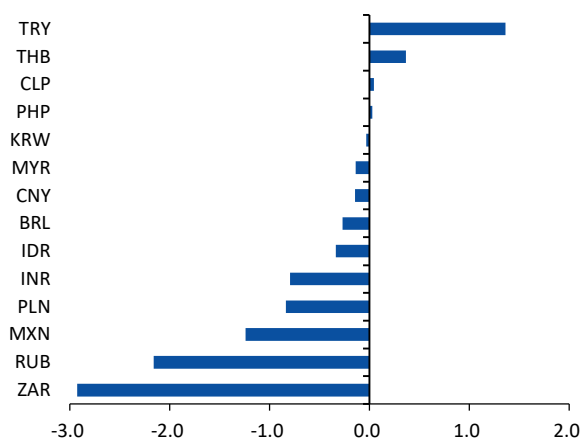
図表 4: IDR の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

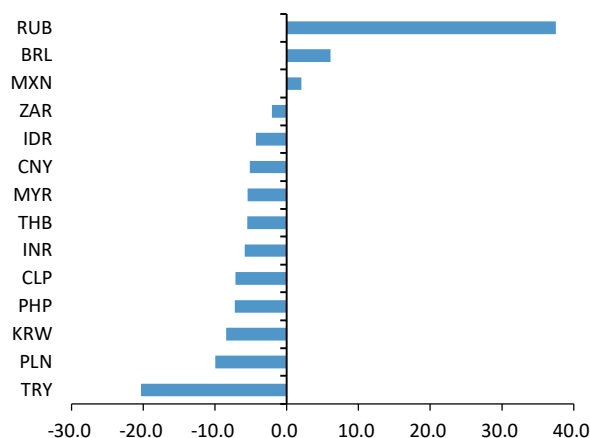
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



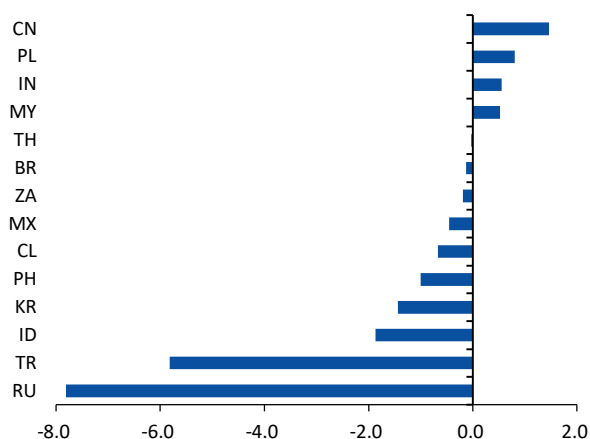
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



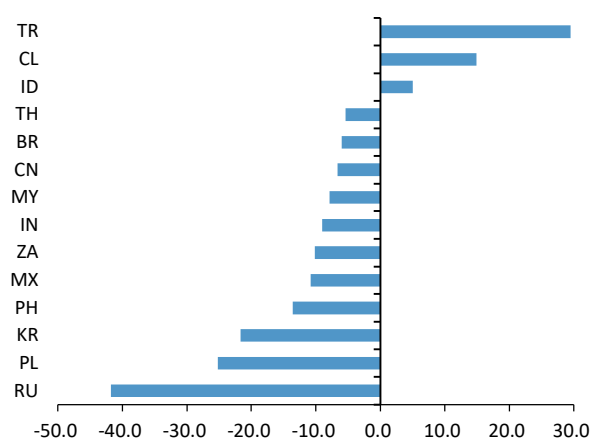
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



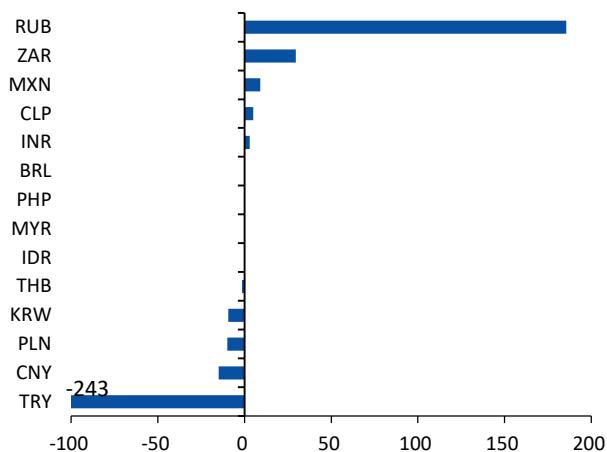
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

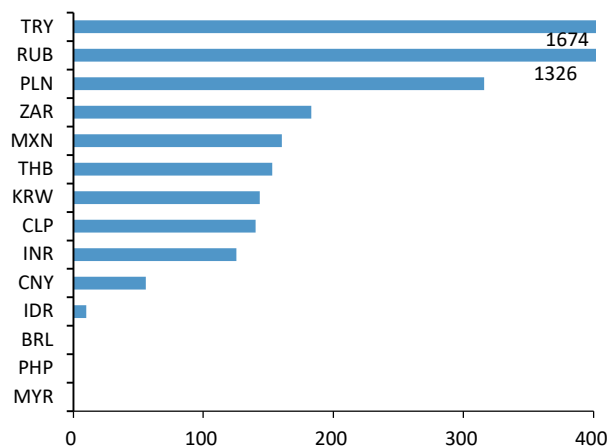
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

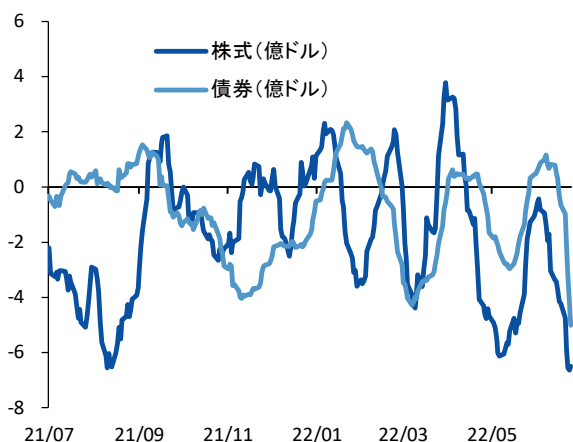


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

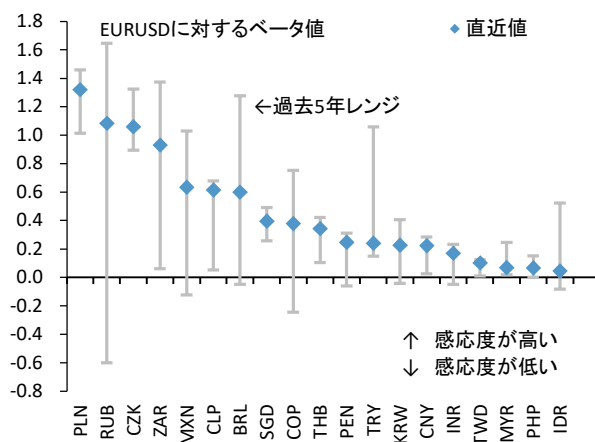
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



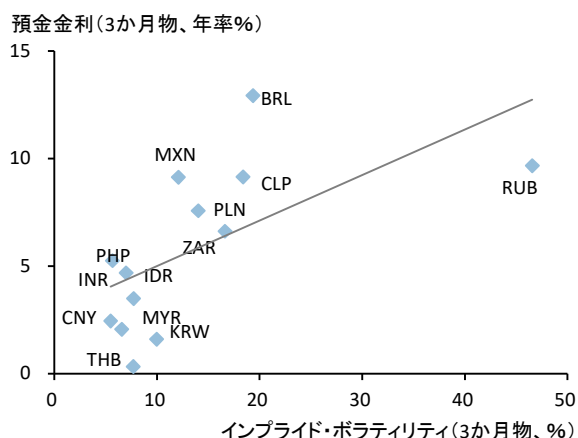
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



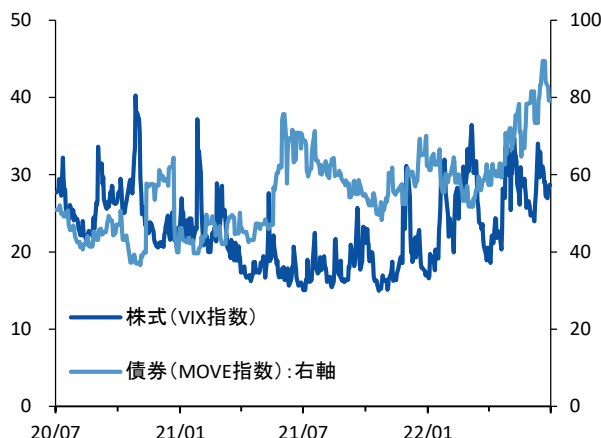
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



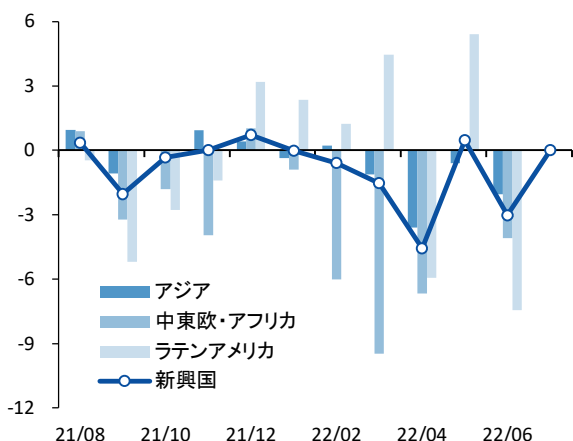
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



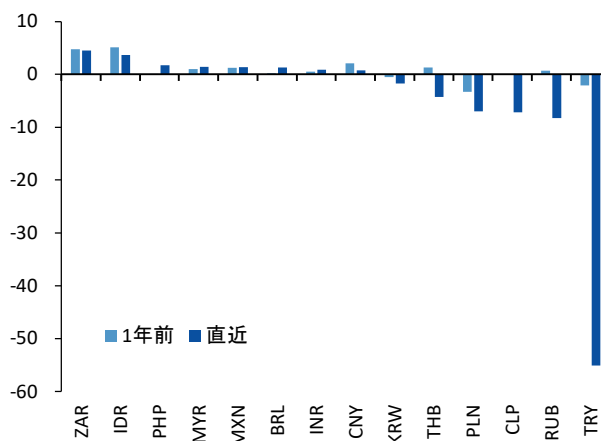
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月27日 (月)	中国	工業企業利益(前年比)	--	1.0%	-8.5%	--
29-30日 (月)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$1450m	\$1088m	-\$1908m	--
29日 (水)	韓国	消費者信頼感	--	96.4	102.6	--
30日 (木)	韓国	景況判断(製造業)	--	83	87	--
30日 (木)	韓国	景況判断(非製造業)	--	81	86	--
30日 (木)	韓国	鉱工業生産(前年比)	4.0%	7.3%	3.3%	--
30日 (木)	中国	製造業PMI	50.3	50.2	49.6	--
30日 (木)	中国	非製造業PMI	50.1	54.7	47.8	--
30日 (木)	タイ	国際収支:経常収支	--	\$2105m	-\$3351m	--
7月1日 (金)	韓国	貿易収支	-\$3962m	--	-\$1710m	--
1日 (金)	中国	Caixin中国製造業PMI	49.4	--	48.1	--
1日 (金)	インドネシア	CPI(前年比)	4.2%	--	3.6%	--
5日 (火)	韓国	CPI(前年比)	--	--	5.4%	--
5日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	5.4%	--
5日 (火)	中国	Caixin中国PMIサービス業	--	--	41.4	--
5日 (火)	タイ	CPI(前年比)	--	--	7.1%	--
5日 (火)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	12.1%	--
6日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	--	--	2.00%	--
6日 (水)	台湾	CPI(前年比)	--	--	3.4%	--
7日 (木)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	-\$79.3m	--
8日 (金)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.6%	--
8日 (金)	台湾	貿易収支	--	--	\$2.41b	--
中東欧・アフリカ						
6月29日 (水)	南ア	BER消費者信頼感	--	-25	-13	--
29日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	-9.6%	-10.1%	-9.7%	--
29日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	-3.2%	-1.7%	-1.6%	--
30日 (木)	トルコ	貿易収支	-10.70b	-10.6b	-6.11b	--
30日 (木)	南ア	PPI 前年比	14.0%	14.7%	13.1%	--
30日 (木)	南ア	貿易収支(ラント)	26.3b	28.3b	15.5b	--
7月1-8日 (木)	ロシア	経常収支	--	--	58200m	--
2日 (土)	ロシア	GDP(前年比)	3.5%	--	3.5%	--
4日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	73.5%	--
4日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	--	132.2%	--
8日 (金)	トルコ	経常収支	--	--	-2.74b	--
ラテンアメリカ						
6月27日 (月)	メキシコ	貿易収支	-1560.0m	-2215.3m	-1884.1m	--
29日 (水)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	10.8%	10.7%	10.7%	--
7月2日 (土)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$10000m	--	\$4944m	--
4-9日	ブラジル	経常収支	\$300m	--	-\$2414m	--
4-9日	ブラジル	海外直接投資	\$6076m	--	\$11843m	--
5日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.5%	--
6日 (水)	メキシコ	総設備投資	--	--	5.9%	--
7日 (木)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	--	--	0.7%	--
7日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	--	--	7.7%	--
8日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	--	--	11.7%	--

注: 2022 年 7 月 1 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2022年 1～6月（実績）	SPOT	2022年 9月	12月	2023年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.3065 ～ 6.8125	6.6993	6.70	6.70	6.73	6.75	6.75
香港ドル	(HKD)	7.7825 ～ 7.8500	7.8467	7.85	7.85	7.84	7.83	7.82
インドルピー	(INR)	73.779 ～ 78.989	78.975	77.5	76.2	75.3	74.4	73.8
インドネシアルピア	(IDR)	14250 ～ 14917	14903	14680	14390	14300	14150	14100
韓国ウォン	(KRW)	1185.81 ～ 1303.65	1298.90	1320	1330	1330	1340	1330
マレーシアリング	(MYR)	4.1645 ～ 4.4253	4.4082	4.38	4.30	4.26	4.26	4.23
フィリピンペソ	(PHP)	50.753 ～ 55.164	54.978	52.8	52.4	52.0	51.7	51.3
シンガポールドル	(SGD)	1.3408 ～ 1.3986	1.3906	1.39	1.37	1.35	1.35	1.34
台湾ドル	(TWD)	27.496 ～ 29.887	29.741	29.8	30.0	30.0	29.8	29.5
タイバーツ	(THB)	32.09 ～ 35.57	35.32	35.3	34.6	34.0	33.8	33.5
ベトナムドン	(VND)	22627 ～ 23283	23282	22950	22700	22600	22550	22550
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	51.1250 ～ 177.2606	54.9870	58.0	62.0	65.0	67.0	70.0
南アフリカランド	(ZAR)	14.4025 ～ 16.4736	16.2808	16.0	15.0	14.0	14.5	15.5
トルコリラ	(TRY)	12.8029 ～ 17.4446	16.6953	18.0	18.5	19.0	19.5	18.0
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	4.5853 ～ 5.7239	5.2559	5.40	5.30	5.20	5.05	4.95
メキシコペソ	(MXN)	19.4136 ～ 21.4676	20.1226	20.4	20.5	20.5	20.4	20.2
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	17.867 ～ 20.454	20.285	20.45	20.90	20.52	20.15	20.00
香港ドル	(HKD)	14.576 ～ 17.454	17.303	17.46	17.85	17.60	17.37	17.26
インドルピー	(INR)	1.491 ～ 1.747	1.721	1.77	1.84	1.83	1.83	1.83
インドネシアルピア	(100IDR)	0.792 ～ 0.928	0.911	0.933	0.973	0.965	0.961	0.957
韓国ウォン	(100KRW)	9.322 ～ 10.729	10.453	10.38	10.53	10.38	10.15	10.15
マレーシアリング	(MYR)	27.109 ～ 31.067	30.903	31.28	32.56	32.39	31.92	31.91
フィリピンペソ	(PHP)	2.202 ～ 2.539	2.477	2.59	2.67	2.65	2.63	2.63
シンガポールドル	(SGD)	84.19 ～ 98.65	97.63	98.56	102.19	102.22	100.74	100.75
台湾ドル	(TWD)	4.060 ～ 4.607	4.565	4.60	4.67	4.60	4.57	4.58
タイバーツ	(THB)	3.416 ～ 3.899	3.844	3.88	4.05	4.06	4.02	4.03
ベトナムドン	(10000VND)	0.5005 ～ 0.5886	0.5831	0.60	0.62	0.61	0.60	0.60
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	0.680 ～ 2.667	2.473	2.36	2.26	2.12	2.03	1.93
南アフリカランド	(ZAR)	7.190 ～ 8.813	8.334	8.56	9.33	9.86	9.38	8.71
トルコリラ	(TRY)	7.584 ～ 9.008	8.129	7.61	7.57	7.26	6.97	7.50
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	20.216 ～ 27.844	25.844	25.37	26.42	26.54	26.93	27.27
メキシコペソ	(MXN)	5.377 ～ 6.868	6.746	6.72	6.83	6.73	6.67	6.68

注: 1. 実績の欄は 2022 年 6 月 30 日まで。SPOT は 7 月 1 日の 7 時 20 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。